

2023年10月1日  
80号

# かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社日立製作所ひたちなか総合病院  
〒312-0057  
ひたちなか市石川町20番1  
TEL 029 (354) 5111  
発行人 渡辺明宏  
編集 広報委員会  
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>  
※バックナンバーは当院ホームページに掲載しております。

## ごあいさつ — 地域を護る病院として —

院長 吉井 慎一



今年は記録的な猛暑日が続いていましたが、皆様におかれましては体調いかがでしょうか。

新型コロナウイルス感染症が、5月8日から感染症法上「2類感染症」から「5類感染症」に変更され、4ヶ月が経過しました。感染者数の推移は数字では表れませんが、全国的に救急受診者数および入院患者数は9月に入っても増加しており、まだピークは見えていません。また高齢者を中心に、新型コロナウイルス感染症だけでなく、発熱や体調不良での受診も増加しました。さらにインフルエンザ感染症や小児のウイルス疾患も増加し、当院も8月は開設以来最大の救急車受け入れがありました。政府として、社会経済活動を以前に戻すことは困難と思われるので、個人での感染対策（手洗い、うがい）がより重要となります。面会に関しても、可能な限り再開するとの通達がありますが、今しばらく面会の人数制限と時間制限へのご協力をよろしくお願いします。

診療体制ですが、皮膚科、耳鼻咽喉科において医師の退職から、地域の皆様、医療機関には大変ご迷惑をお掛けしています。皮膚科は、11

月に常勤医師の確保が決まり、紹介患者の受け入れに努めていきます。当院は高精度放射線治療を行っていますが、10月から放射線治療専門医が2名体制になりました。また、50床の回復期病床では、4月よりリハビリテーション科医師が常勤医2名体制になりました。この2つの診療科は、医師の確保が非常に困難ですが、皆様により充実した医療を提供できると確信しています。

2024年度からは「医師の働き方改革」が法律上開始されます。医師の時間外労働時間や連続勤務時間が厳しく管理されます。同じ医師数では、理論上は日常診療への影響は大きくなります。さらに、電気料金などの公共料金の値上げや、物価高騰の影響は大きく、当院に限らず2024年度からは厳しい病院経営になることは避けられません。当院はこれから直接診療以外の業務の効率化、DX（デジタルトランスフォーメーション）を進め、地域の医療機関との連携をさらに強化し、機能分化（それぞれの役割を明確化し、役割を果たす）を図ります。どのような医療環境でも、皆様に安全で質の高い医療を提供する責務があると考えています。

最後になりますが、「地域を護る病院」として、今後も職員一同がんばっていく所存です。引き続き、地域の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

## ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土	
10月	①	2	3	4	5	6	⑦	11月				1	2	③	④	12月	③	4	5	6	7	8	⑨	1
	⑧	9	10	11	12	13	⑭		⑤	6	7	8	9	10	⑪		⑩	11	12	13	14	15	16	⑰
	⑱	20	21	22	23	24	⑲		⑫	13	14	15	16	17	⑱		⑬	14	15	16	17	18	19	⑳
	㉒	23	24	25	26	27	㉓		⑳	20	21	22	23	24	㉔		㉑	22	23	24	25	26	27	㉕
	㉖	29	30	31					㉔	㉒	25	26	27	28	29		㉖	㉒	29	30	31			

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日



## 腎臓内科



腎臓内科医師 中島 雅美

腎臓内科では、検尿異常から各種腎炎、腎機能障害、保存期腎不全に対する治療を行っています。また、腎代替療法の説明や透析導入も行っていますが、維持透析に関しては、基本的に地域の先生方をお願いしています。

診療は、常勤医1名と非常勤医1名の体制です。このため、入院治療を要する場合は、当院では総合内科と協力して管理します。さらに、筑波大学附属病院腎臓内科および県央、県北地区の腎臓透析基幹病院（水戸済生会総合病院、日立総合病院）と連携して、必要な精査、治療を受けられるようにしています。

腎臓は全身臓器と密接に関連しています。総合病院の一科として、各診療科との連携、各科治療中に生じる腎機能の変化などに対するコンサルテーション対応も、大事な役割と認識しています。一方で、当科から各科をお願いすることも数多くあります。

こういった、各科との相互連携が円滑に行えるのも当院のとても良いところです。

今、当科で特に力を入れているのは、慢性腎臓病（CKD）重症化予防の取り組みと病診連携の強化です。CKDの早期発見、指導や治療が必要なCKDの重症化予防のために、チームでの生活習慣へのアプローチ指導が有効であるとの成績が出てきており、ますますチーム医療が重要視されてきています。当院でも多職種のスタッフによるチーム医療を行っています。各分野（看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、臨床検査技師、診療放射線技師、医療クラークなど）のスタッフがそれぞれ積極的に取り組んで、腎疾患に関する専門的資格を持っているスタッフもいます。薬剤師は地域を巻き込んだ勉強会を実施し、腎機能を意識した薬剤管理の地域全体のレベルアップをめざす活動をしています。このように頼もしいメンバーで構成するチームで、状態に応じて、必要なチーム医療の提供、糖尿病透析予防から腎代替療法選択、透析導入期指導までシームレスに指導をおこなっています。



看護師チーム



臨床工学技士

有病人口が2,000万人とも言われるCKD。地域一体となって重症化予防に取り組んでいくには病診連携の強化が欠かせません。CKD紹介基準をご参考いただき、当院にご紹介いただいた際には、患者さんの状態評価、チームでのCKD指導を実施しながら、地域の先生方にも、治療継続をできるだけお願いしています。そのため、当院受診結果の説明と治療継続の参考にしてもらう【CKD病診連携連絡票】の試みをしています。【CKD病診連携連絡票】には状態変化の時の再紹介いただく目安も記載しています。

先生方に当科をご利用いただき、病診連携を強化していくこと。その積み重ねが、当院の理念である「地域を護る病院」の役割を担うことにつながると考えています。今後ともよろしく願いいたします。



多職種チームでサポートします

## 患者総合支援センター



患者総合支援センタースタッフ

2023年4月より地域医療連携推進室、入院前支援室、ベッドコントロール室、退院支援室、医療福祉・がん相談室、患者サポート室が統合され患者総合支援センターとなりました。6つの部署が一つになったことで、より早く、より深く連携が図れ情報交換が可能となりました。受け入れから通院・退院後のサポート、その間に必要な院内外の関係者と連携を図りながら総合的な支援活動を行ってまいります。どうぞよろしくお願いたします。

## 地域の先生紹介

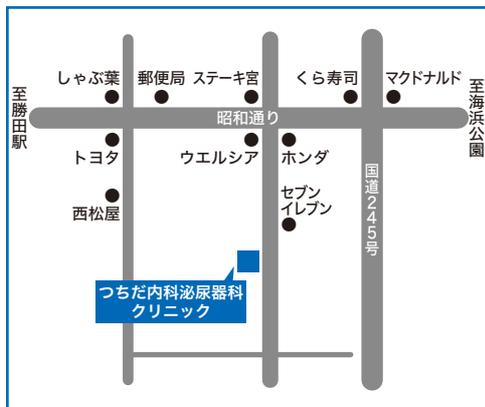
### つちだ内科泌尿器科クリニック



院長 土田 誠

ひたちなか総合病院とのお付き合いは、まだ当時の水戸総合病院と言っていた頃からで、かれこれ25年位になります。初めの5年は勝田病院時代で、クリニックを開業してからは約20年で、長きにわたり患者さんのやり取りを介してお世話になっています。勝田病院に泌尿器科医として赴任し、当時の水戸総合病院の泌尿器科にご挨拶にうかがい、現院長の吉井先生、当時の院長鶴田先生に初めてお会いしたのは、つい昨日のようにも思えます。勝田病院時代からの携わってきた透析医療は開業後も継続し、現在、ひたちなか総合病院から透析導入患者さんをご紹介いただくこともあります。透析治療は1回4～5時間、週3回の治療を要するため、通院サポートとして送迎サービスも行っています。

また外来では泌尿器科全般、一般内科も行っています。腎癌、膀胱癌、前立腺癌などの早期発見に努め、手術などが必要な場合には、ひたちなか総合病院での治療をお願いしています。これからも病診連携を深めていきたいと思ひます。



医療連携に関するお問い合わせは地域医療連携推進室へ

8：15～16：30（月曜日～金曜日）

TEL 029-354-5202（直通）

FAX 029-354-5220（直通）

## 「その人らしい人生」をチームで支えています

看護師 大芦 恵美

HCU (High Care Unit) は、集中治療を提供する場所です。重篤な急性症状を有した方や、手術や検査後など状態が変化しやすい方を24時間体制で看ています。

HCUは、人工呼吸器をはじめとする医療機器が多く、モニター音が常に聞こえる場所です。そのような環境に不安や恐怖心を抱く患者さんやご家族も多く、また突然の状態変化に動揺して強い不安や悲しみを抱く方もたくさんいらっしゃいます。精神的に余裕のない中、治療の選択をしなければいけないこともあります。その動揺と辛さは、想像を絶するものだと思います。私たちHCUスタッフは、そのような辛い状況の患者さんやご家族の支えになっていきたいと思っています。

コロナ禍の面会制限で、その思いはより一層強いものとなりました。HCUスタッフで話し合いを重ね、「患者さんやご家族のために私たちにできる関わりをしていきたい」「患者さんやご家族がどのような思いでいるかを知り支えていきたい」という思いを全員が持つようにな

りました。現在は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、薬剤師などの多職種チームで毎日話し合いをしています。これからも多職種チームで協働し、患者さんやご家族の「その人らしい人生」の最良の選択を支えていきたいと思っています。

もしものときは、私たちがそばにいます。ありのままの思いをつたえてください。



多職種チーム

## 幸せの4つの因子

保健師 山崎 真由美

「幸せ」になるためにはどんなことをすればよいのでしょうか。人生100年時代ともいわれる現代では、できるだけ長く「幸せ」と感じられる生き方をすることが大切です。今回は「幸福学」研究の第一人者である前野隆司教授（慶應義塾大学大学院）の幸せの4つの因子についてご紹介します。

幸せの4つの因子は①やってみよう②ありがとう③なんとかなる④ありのままに、です。

### 〈幸せの4つの因子〉

#### ① やってみよう

夢や目標をもって、目標のゴールをイメージし、ワクワクと楽しみながらチャレンジ。

#### ② ありがとう

日常の中で些細なことにも感謝する気持ち。親切にする。友人を大切にする。

#### ③ なんとかなる

楽観的に考える。細かいことは気にしない。

#### ④ ありのままに

人と自分を比較しない。自分のペースで過ごす。自分らしさをもつ。

この4つの因子がそろっている人は幸福度が高いといわれています。とはいえ、全ての因子に取り組むことは難しいでしょう。まずは、できることから意識してください。

また、幸福度が高い人がいると、周囲の人も幸せを感じることができるようです。「ありのままに」「なんとかなる」と「やってみよう」、そして「ありがとう」と感謝する。

体が健康であることももちろん大事なことです。心が健康であるために、「幸せ」が必要と思います。今後、より良く生きるためにぜひ心がけてください。

## ◆◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆◆

診療科	氏名	異動日
内科	石川 雄大	退職 (2023. 9. 30)
	竹内 恵理	採用 (2023. 10. 1)
総合内科	山崎 勇輝	退職 (2023. 9. 30)
	渡邊 達也	退職 (2023. 9. 30)
	山下 雄斗	採用 (2023. 10. 1)
循環器内科	塚田 亮羽	採用 (2023. 9. 1)
呼吸器内科	高橋 優太	採用 (2023. 10. 1)
リウマチ科	奥田 紗帆	採用 (2023. 10. 1)
消化器外科	力石 晃爾	退職 (2023. 9. 30)
整形外科	渡邊 優	退職 (2023. 9. 30)
	伊藤 弘樹	採用 (2023. 10. 1)
放射線治療科	茂木 厚	採用 (2023. 10. 1)
臨床研修医	西浦 悠人	退職 (2023. 9. 30)
	石関 駿介	採用 (2023. 10. 1)